

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)BRANCH博多パピヨンガーテ	階数	地上2F
建設地	福岡県福岡市博多区千代1丁目486	構造	S造
用途地域	第二種住居地域、商業地域、準防火	平均居住人員	3,000 人
地域区分	7地域	年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)
建物用途	物販店、飲食店、病院、等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年1月 予定	評価の実施日	2019年12月26日
敷地面積	43,056 m <sup>2</sup>	作成者	稲田靖之
建築面積	15,384 m <sup>2</sup>	確認日	2019年12月26日
延床面積	18,703 m <sup>2</sup>	確認者	森祐二



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算  
 ①参照値 100%  
 ②建築物の取組み 83%  
 ③上記+②以外の 83%  
 ④上記+ 83%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.4**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.2

**LR のスコア = 3.3**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他
<p>室内環境では良好な空気質維持することが可能。利用者へ快適な空間の提供を目指している。防汚性の高い建材の使用やSK室・ゴミ庫の設置を維持管理機能の確保に努めている。多様な通信手段等で災害時の建物の維持をできるように一部対策をしている。様々な緑地管理にて生物環境の保全に大きく貢献している。フェンスで外部設備に目隠しすることによりまちなみの調和を目指している。監視カメラ、イベントスペースの設置をし地域アメニティの高い生活環境、安全性の高い施設を提供できるよう対策をされている。中央監視設備を設置することでより効率的な運用、維持、保全の対策を早期に行える。自動水栓の設置、雑排水の利用、リサイクル材の活用等、資源に配慮された建築物を計画されている。日影規制、光害対策を行い近隣住民に迷惑が掛からないよう配慮されている。</p>	<p>対策なし</p>
<p><b>Q1 室内環境</b> 十分な昼光率を確保しており採光可能性を示している。F☆☆☆☆の建材を使用し、喫煙室を設け一部、空気質環境に配慮がなされている。室内面積の1/15以上の開口部を設けており良好な空気質環境の維持が可能。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> 天井高を高くし内装計画を行うことで快適な空間造りに努めている。防汚性の高い建材を活用している。SK室、ゴミ庫の設置や掃除の際に十分な照度を確保し維持管理機能の確保を行っている。防振器具を使用し内部設備の機能低下防止を意識している。節水器具の設置、井水の利用、通信手段の多様性、災害時にケーブルTVでの情報取得が可能等、災害時に建物の機能維持するため、対策を行っている。ゆとりのある階高、空間プランニングの自由度等で将来の用途変更の一部に対応している。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b> 中央監視設備にて年報データ収集、トレンド収集、トレンド記録よりエネルギー消費の内訳を把握しシステム性能の評価が可能。中央監視設備にてより効率的な運用が可能。運用管理体制を明確にし組織的な運用、維持、保全の対策を早期に行っている。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> 自動水栓の設置、雑排水の利用をしてお水資源の保護をしている。リサイクル材の活用をしている。仕上げ材と躯体が容易に分別でき再利用可能性向上を目指している。発泡剤を用いた断熱材を使用しておらずオゾン層破壊防止対策を行っている。</p>
<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 外来種の対応、自生種の保全、植栽条件に応じた緑地管理に生物環境の保全に大きく貢献している。設備機器が周辺道路から直接見えないよう、フェンス等により囲みまちなみの調和を目指している。地域アメニティの高い生活環境を目指しイベントスペースを設けている。監視カメラの設置により利用者に危険を感じない安全のある環境を提供している。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> 雨水排水負荷の低減、日影規制の1ランク上の基準を満たすことにより地域への配慮に努めている。光害の対策を行い地域へ漏れ光のないように努めている。</p>

- **Q: Quality** (建築物の環境品質)、**L: Load** (建築物の環境負荷)、**LR: Load Reduction** (建築物の環境負荷低減性)、**BEE: Built Environment Efficiency** (建築物の環境効率)
- 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
- 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される